



1977年、由良さん率いるレーシングコンストラクター・ムーンクラフトがオリジナルマシンとして製作した初代「紫電」(写真上)は、そのスタイリングの美しさから多くの人に愛され、レース界に一大センセーションを起こした。2006年よりSUPER GT GT300クラスに紫電の名を受け継ぎ、「紫電MC/RT-16」として参戦。毎戦上位を争う存在となった。2011年からは、新たにエヴァンゲリオン初号機のカラーリングが施され「エヴァンゲリオンRT初号機アップル紫電」という車名に(写真左)。2012年11月に開催されたJAF Prix FUJI SPRINT CUPを持って引退した。

由良さん、カヤック製作を通して、足立選手への夢を叶えることができた最高です。僕自身の夢と



「カヌー競技の魅力をたくさんの人に知ってもらいたい」。そんな想いから足立選手がYouTubeチャンネルを開設。カナディアンシングル羽根田拓也選手との対談や足立選手の拠点である萩市の観光スポットめぐりまでさまざまなコンテンツが楽しめます。



しては、僕の原点でもあるレーシングカーをまた作ってみたい。でも、コロナ禍でレースを開催することが難しくなっているから、例えばカーボンファイバーでドローンを作るとか、自分が好きなこと、面白いと思うことを突き詰めながら、いろいろなチャレンジしていきたいと思っています。

お2人の車に「EXキーパー」を施工させていただきました！

新車を超える艶、息を呑む、過剰なまでの美しさが特長の「EXキーパー」を、由良さん、足立選手の車に施工させていただきました！



山口県から東京の練習場まで頻りに行き来しているの、前面やホイール部分の汚れは気になっていました。仕上がりをみて「カッコ良さが倍増した！」ってびっくりしました！(足立選手)



カヤックにキーパーコーティングをして、その良さは分かっていますが、自分自身の車にキーパーコーティングするのは初めてです。ボディの色が濡れたように濃くなった感じ。濡れたタオルを置いたら、滑り落ちちゃうくらいのおすべしした手触りもすごく良くて感動しました！(由良さん)



キーパーコーティングが勝負を左右する！

由良さん、実はあんまり話したくないんですけど、こ

い。環境や食事に慣れない場合もあります。でも僕が日本に拠点を置きながら成果を出すことで、若い選手に「日本にいてもやれるんだ」という活路を見出してもらえたらという想いがあります。

由良さん、足立選手は、市場コーチとともに山口県萩市に在住しているんですけど、東京にある練習場まで月に何度も車で通ってるとすごいですね。

足立さん、カヌー持って新幹線に乗れないので、車で片道半日くらいかけて行きます。半年で3万2千キロ超えています。でもヨーロッパとかになると、片道1000キロの移動とかはザラにありますから。

由良さん、情熱がないとそこまできなかなかない。僕がカヤックに今まで情熱を持ち続けることができるのは、世界一になりたいという強い想いと、市場コーチや由良さんをはじめ、いろいろな人との出会いやつながりがあったからこそです。たくさんの人に支えられ、試練や困難を乗り越え、ステップアップし、見える景色が変わるのを感じた時、大きな喜びを感じます。ひたすらぶれずに毎日トレーニングをし、ポテンシャルの高いカヤックに見合った選手になっていきたいと思っています。そして僕と関わっていただいている多くの人たちの前で最高のパフォーマンスを披露し、世界一を獲得するため、精進していきます。

由良さん、カヤック製作を通して、足立選手への夢を叶えることができた最高です。僕自身の夢と

ものづくりのこだわりがあるからこそ、ポテンシャルの高いカヤックが生まれています(足立)

ていると実感しています。

1ミリの追求するものづくりへのこだわり

由良さん、レースの世界において、ものづくりへのこだわりがとても重要です。しかし、日本のものづくりを大事にする風潮が、最近薄れているような気がして少し寂しいですね。いいものより、安いものが重宝される。でもたった1ミリのことで、とことんこだわり追求してこそ、限界を超えられるんです。

足立さん、本当にそうなんです。ものづくりのこだわりがあるからこそ、ポテンシャルの高いカヤックが生まれています。だから僕はもっとあししたら、こつしたらと由良さんにどんどん要求してしまいます(笑)。

由良さん、具体的な言葉は使えませんが、使い方を間違えれば遅くもなってしまうんです。でもうまく使えば手応えを十分に感じることが出来ます。今では、キーパーコーティングありきでカヤックの形状を改良しているくらい。キーパーコーティングは大きな可能性を秘めています。キーパーと共同開発を行っているドイツのケミカルメーカーSONAXのドクター・ピッチは、元カヤックの選手だったと聞いて、さらにこの縁を感じています。ヨーロッパの大会に日本からケミカルが持ち込めないことを知って、陸路で届けてくれるなどとても懇意にしてくださっています。

ものづくりに携わる者として、キーパーコーティングにもこだわりたい

感じることもできます(由良)



レーシングカーの開発を続けてきたことが、約1年で5艇という常識破りの開発ペースを成し得た要因だという由良さん。キーパーコーティングに大きな可能性を見出し、あらゆるケミカルを使ったより速いカヤックを開発中です。



足立選手の求める感覚や動きを実現するため、ミリ単位の調整を幾度となく繰り返し、開発されたカヤック。メイクアンドトライを続け、5艇目のカヤックで国際NHK杯4位入賞し、日本代表に選出これにキーパーコーティングのコーティング技術が加わって、より速いカヤックの完成が期待されます！

世界一を目指して情熱を持ち続けること

足立さん、僕には、日本で暮らし、日本でトレーニングをするという、日本へのこだわりも持っています。海外でトレーニングをする選手が多いのですが、すごくお金がかかるので、まだ結果を出していない若い選手が海外に行くのは難しいです。キーパーコーティングにもものづくりへのこだわりをとても感じます。相当研究して開発しているんだなど、同じくものづくりに携わる者として実感しています。あんまりすごいことっていうとライバルに興味持たれちゃうからこのくらいにしておきます(笑)。

